

委 24-2-1

主な内容：JAXA2005－2006 ビッグ・プロジェクト・レビュー
特別セッション等

宇宙開発の現状報告

(平成 18 年 6 月 27 日～平成 18 年 7 月 4 日)

平成 18 年 7 月 5 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

6 月 29 日 (木)

- ・ ベトナム科学技術院 (VAST) と将来協力の可能性検討に係る取り決めの締結 **【独立行政法人宇宙航空研究開発機構】**

独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の立川理事長及びベトナム科学技術院 (VAST) のミン院長は、6 月 29 日、ベトナム社会主義共和国ハノイ市において、両機関の将来協力の可能性検討のための取り決めに署名した。

今回の署名により、今後、衛星リモートセンシング、小型衛星開発と利用、国際宇宙ステーション日本実験棟利用に向けた共同研究、能力開発の分野において、具体的な協力案件の検討を進める予定。

7 月 4 日 (火)

- ・ JAXA シンポジウム 2006 の開催

【独立行政法人宇宙航空研究開発機構】

開催場所：よみうりホール

参加者：約 700 名

宇宙開発に関する海外の動向

6 月 29 日 (木)

- ・ デルタ 4 ロケット、軍事衛星の打上げに成功 **【米】**
6 月 28 日 3 時 33 分 (世界標準時)、米国は、バンデンバーク空軍基地より、デルタ 4 ロケットを打ち上げ、国家偵察局 (NRO) の軍事衛星「NRO L-22」の軌道投入に成功した。打上げ時の重量は不明。

6 月 30 日 (金)

- ・ 中国、全人代第 22 回常務委員会で APSCO 設立協定を批准 **【中】**
6 月 29 日 (現地時間、以下同じ)、第 10 期全国人民代表大会第 22 回常務委員会において、「アジア太平洋宇宙協力機構 (APSCO)」の設立協定が批准された。APSCO 設立には 5 カ国以上の批准が必須で、中国以外ではモンゴルが 4 月 13 日に批准済み。なお、現在、中国、バングラディッシュ、インドネシア、イラン、モンゴル、パキスタン、ペルー、タイ、トルコの 9 カ国が同協定に署名している。

7 月 3 日 (月)

- ・ NASA、次世代打上げ機の名称を発表 **【米】**
6 月 30 日 (現地時間)、米国航空宇宙局 (NASA) は、月

飛行・火星探査に用いられる次世代打上げ機の名称を発表した。搭乗員打上げ機「Crew Launch vehicle (CLV)」は「Ares 1」、貨物打上げ機「Cargo Launch vehicle (CaLV)」は「Ares 5」と呼ばれる。

スペースシャトルの後継機である有人宇宙船「Crew Exploration vehicle (CEV)」の名称については後日命名される。

7月5日(水)

・ NASA、スペースシャトル打上げに成功 【米】

7月4日(火) 18時38分(世界標準時)、NASAは、ケネディ宇宙センターより、スペースシャトル「ディスカバリー号」(STS-121/国際宇宙ステーション利用補給ミッション(ULF1.1))の打上げに成功した。

NASAによると、打上げ時に外部燃料タンクから断熱材の小片が落下するのが確認された。NASAにおいては、現時点でオービタに問題は生じないと考えているものの、引き続き、詳細な解析を行っている。

第23回宇宙開発委員会 議事要旨(案)

(重複する情報のため記載を省略)

5 出席者

宇宙開発委員会委員長	井口雅一
宇宙開発委員会委員	松尾弘毅
〃	青江 茂
〃	野本陽代
〃	森尾 稔
文部科学省研究開発局長	森口泰孝
〃 研究開発局参事官(宇宙航空政策担当)	池原充洋

6 議 事

- (1) ロシアサービスモジュールを利用した3次元フォトニック結晶生成宇宙実験の実施結果について
独立行政法人宇宙航空研究開発機構(小林主幹開発員)及び国立大学法人富山大学(伊藤助教授)より、ロシアサービスモジュールを利用した3次元フォトニック結晶生成宇宙実験の実施結果について報告があった。

(資料委 23-1-1、委 23-1-2 参照)

(2) その他

- ① 宇宙開発の現状報告
事務局より説明があった。(資料委 23-2-1 参照)

② 議事要旨

第22回宇宙開発委員会議事要旨(案)について、原案どおり了承した。(資料委 23-2-2 参照)